

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
(幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム)
研究開発課題評価(令和5年度実施)
事後評価結果報告書

| | |
|----------|----------------------------------------|
| 研究開発課題名 | マウス胎内を利用した iPS 細胞由来腎前駆細胞からのヒト腎臓再生技術の開発 |
| 代表機関名 | 東京慈恵会医科大学 |
| 研究開発代表者名 | 山中 修一郎 |

1. 総合評価

良い

【評価コメント】

「キメラ動物」を用いた臓器/組織再生技術開発や創薬支援モデル動物開発に対して、多くの有用な知見や要素技術を生み出した。特に iCaspase9 による前駆細胞除去システム移植動物の作製技術やキメラ臓器の毒性評価などは、他の臓器あるいは他の研究領域でも有用性が期待できる。生命倫理などについては法令を遵守し、適切に対応している。アウトリーチ活動は論文 7 報、特許出願 4 件と積極的に行われている。一方、当初の目標に対して未達の部分が散見されるが、適切な原因分析がされている。主たる未達課題はヒト用腎前駆細胞置換システムの開発遅延だが、システム自体の作製可能性は示されており、今後の発展が期待される。